

子どもたちに 核兵器のない世界を

核兵器廃絶めざす
全教メールニュース

第49号 2010.9.17.

改訂版の署名用紙とポスター使い、全教・日高教本部が署名行動 「あなたの署名を国連へ」 修学旅行生など署名の列

国連にむけて「核兵器禁止・廃絶条約の交渉を開始し締結すること」を求める署名用紙とポスターができあがりました。国連軍縮週間（10月24日～30日）にむけて、学習・宣伝・署名などの運動を呼びかけます。

全教・日高教本部もその先頭にと、9月17日、15人の参加で、核兵器廃絶の宣伝・署名行動を四ツ谷駅前で行いました。4枚の被爆写真や被爆者の書いた絵を並べ、「子どもたちに核兵器のない平和な未来を」の横断幕を広げ、

「あなたの署名を国連へ」の新しいポスターを掲げた署名板を持って訴え、核廃絶や憲法のチラシを入れた150個のティッシュを昼休みのサラリーマンや学生などに配りました。多くの方が被爆写真に注目し、立ち止まってジッと見つめる年配の方もいました。福岡県から来た6人の高校生が「修学旅行の記念に」とそろって署名してくれて感激。若いOLや学生が署名してくれたのが目立ち、30分で19人の署名が集まりました。



核兵器廃絶は世界の主流、日本政府はイニシアチフを！ マイクで訴え



マイクでの訴えでは、全教の磯崎書記次長が、初めて広島を訪れたパン・ギムン国連事務総長が、「核兵器が使われれば、傍観者でいられる人は誰もいません。核兵器廃絶を求める闘いでも、傍観者がいてはなりません。誰もが私たちの行動に加わるべきです。」と呼びかけたことを紹介し、一人ひとりの声が国際政治を動かしていると、署名を呼びかけました。全教の平尾中央執行委員

は、「核兵器による安全」ではなく「核兵器のない世界の平和と安全」こそが人類の生存を保障する確かな道であると述べ、日本政府に核廃絶の先頭に立つよう声を集めようと訴えました。日高教の井村書記次長は、今年8月に原水爆禁止世界大会に参加し、被爆者から、結婚する時に悩み、子どもが生まれる時も孫が生まれる時も放射能の影響を本当に心配し悩んだことを聞き、核兵器は命を奪うだけでなく、被爆者の人生に大きな傷を残すものであると感じたことを報告し、被爆者が生きているうちに核兵器をなくすためにと、署名を訴えました。

女性部委員会の後には、全国で、 核兵器廃絶の宣伝を！

全教女性部は、総会や委員会の後には地域で宣伝行動をしようと提起し、全国で宣伝行動がおこなわれています。9月5日の女性部委員会の後も17名の参加で、市ヶ谷駅で恒例の宣伝をおこないました。リレートークをしながらの短時間のとりくみでしたが、署名22筆が集まりカンパ1000円が寄せられました。

